

低温物流事業



ニチレイロジグループ
https://www.nichirei-logi.co.jp

トップメッセージ



梅澤 一彦

株式会社ニチレイ 取締役執行役員
株式会社ニチレイロジグループ本社 代表取締役社長

● 中期経営計画「WeWill 2021」の進捗状況

中期経営計画 主な施策

- ・業務革新と新人事制度構築への取り組み加速
- ・革新的な物流ソリューションの展開
- ・収受料金の適正化
- ・海外事業の拡大

低温物流事業は、2020年度においても増収となり、営業利益に関しては6年連続で増益となりました。市場環境は、外食などの一部業態向け貨物の取り扱いが減少したものの、巣ごもり需要の高まりによって国内外ともに家庭向け商材の取り扱い量が増加しました。当社は、家庭用と業務用の貨物をバランスよく取り扱っているため、コロナ禍の影響を最小限にとどめることができたと認識しています。

現中期経営計画「WeWill 2021」の3年間では、①業務革新の断行および新人事制度の導入の両輪による働き方改革の遂行、②低温物流分野でのソリューションカンパニーとしてのビジネスモデルの確立、③提供しているサービスに見合った適正料金の収受、④海外事業の

事業内訳ごとの売上高と営業利益

(単位:億円)

低温物流	2020年度			2021年度計画		
	実績	前年同期間比		見込み※	前年同期間比	
		増減	率		増減	率
売上高	2,123	58	3%	2,240	117	6%
国内小計	1,722	68	4%	1,800	78	5%
物流ネットワーク	1,028	19	2%	1,040	12	1%
地域保管	694	49	8%	760	66	10%
海外	365	△10	△3%	395	30	8%
その他・共通	36	0	1%	45	9	25%
営業利益	131	13	11%	143	12	9%
国内小計	121	12	11%	131	10	9%
物流ネットワーク	51	10	23%	54	3	6%
地域保管	70	2	3%	77	7	11%
海外	14	2	14%	16	2	12%
その他・共通	△4	△1	—	△4	0	—

※ 2021年8月3日時点

● 事業規模

- 総資産 181,136百万円
- グループ会社 国内22社、海外11社
(うち関連会社:国内6社、海外2社)
- 従業員数 4,277名
- 拠点数 国内114拠点
海外 26拠点(欧州16、中国6、タイ、マレーシア)

- 主な事業拠点
[保管型物流センター(DC)]
船橋、東扇島、平和島、大黒、名古屋みなと、
大阪埠頭、大阪新南港
[通過型物流センター(TC)]
川崎ファズ物流センター、関西センター
- 主な事業
・保管事業
・輸配送事業
・TC事業
・海外事業
・3PL事業
・エンジニアリング事業

拡大、の4項目の実現に向けて取り組んでいます。

①業務革新は、5年前からAIやロボティクスなどの先端技術の導入に取り組んでいます。また、新人事制度によって自由度の高い働き方を可能にし、地域職の中でも管理職を望む女性が増加しました。②においては、LLP^{※1}としての専門的なノウハウを武器にお客様の課題解決を行い、ビジネスモデルとして確立することを目指しています。その過程で従来の3PL^{※2}事業も拡大しており、専門スキルを持つ従業員が増えています。③適正料金の収受については、この3年間で全社的な目標水準を定め、計画的に取り組んでいます。④海外事業の拡大では、成長投資の継続によって事業基盤の拡大を推進し、良いビジネスモデルを獲得できている状況にはありますが、新型コロナウイルス感染症収束後を見据え、よりスピード感と課題感を持って注力していく考えです。

※1 LLP(Lead Logistics Provider): 3PLで提供する物流オペレーションと管理に加え、顧客に対してサプライチェーンマネジメント戦略やロジスティクス戦略、ビジネスプロセスの構築も支援する。

※2 3PL(3rd Party Logistics): 物流機能の全体または一部をノウハウのある第三の企業に委託する物流業務形態の一つ。荷主の立場に立ってロジスティクスの企画・設計・運営も行う。

● ニチレイロジグループの「強み」

ニチレイロジグループの冷蔵倉庫は、保管能力が業界No.1であり、それに輸配送ネットワークが加わることでユニバーサルサービスが可能なのが最大の強みです。加えて、広域顧客から地場企業まで、商材も原料から製品まで、物流の川上から川下までと、非常に厚みと幅のある多様な顧客基盤があり、お客様や貨物を組み合わせることで自社ネットワークを高稼働させることが可能です。

また、低温物流分野における課題解決やコンサルティングの能力についても業界トップクラスだと認識しています。現在はコンサルティングに注力し、現場などで得

たデータを可視化・分析・評価することでお客様の経営戦略や営業方針に沿った、あるべき物流体制を共創しています。当社では、ソリューション機能の強化に向けて、利用体験価値を生み出す人財が何よりも重要だと認識し、階層別研修や機能別研修の充実を図っています。また、AIやロボティクスなどの先端技術を活用することで、暗黙知に頼らない、物流現場運営の誰でもできる化やオペレーションの自動化に取り組んでいます。

● 海外戦略について

海外ではさらに成長投資を継続し、事業基盤の拡大を図ります。2021年度はオランダ・ロッテルダム港湾地区に倉庫を増設し、通関・保管・運送のワンストップサービス機能を充実させるとともに、フランス国内2拠点の事業基盤の強化を図ります。また、英国のBrexitに伴う通関・保管需要も取り込むことで、各拠点間の相互連携による港湾ビジネスの拡大を進めます。また、アジア地域では、低温物流需要が高まる中国で、上海周辺エリアを中心に、既存顧客への対応や新規需要の獲得に向けた取り組みを継続してまいります。



低温物流事業

● 事業内容

ニチレイロジグループは、輸配送やTC事業、LLPおよび3PL事業を軸とした物流ネットワーク事業と、冷蔵倉庫機能を担う地域保管事業、欧州・中国・ASEANに展開している海外事業、低温物流設備の企画・設計から保守管理までを行うエンジニアリング事業で構成される、国内最大規模の低温物流企業グループです。

国内No.1の高機能的な設備能力ときめ細かなサービスでユニバーサルにワンストップサービスの価値を提供しています。

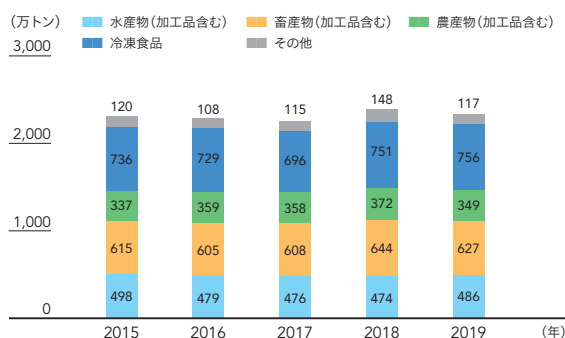
国内冷蔵倉庫設備能力一覧

地域	拠点数	冷蔵能力（千トン）
北海道	7	88
東北	4	64
関東	18	563
中部	11	221
関西	12	274
中四国	12	130
九州	12	175
合計	76	1,515

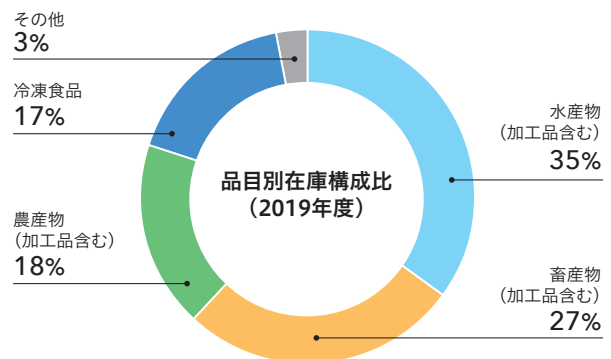
※ 2021年3月末時点

● 市場環境

国内冷蔵庫業界の品目別入庫数量の推移



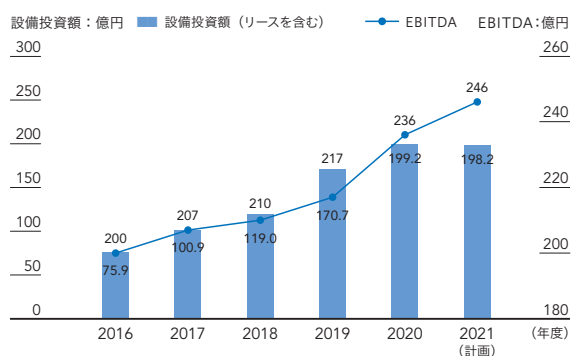
※ 出所：日本冷蔵倉庫協会のデータを当社が加工



● 設備投資の状況

- EBITDAの3年平均成長率は5%を見込む
- 成長投資のほか、設備の長期利用や環境対応など基盤強化の投資を推進
- 設備能力は、17/3～21/3の期間、国内で約1割、海外で約2割増強

設備投資額とEBITDAの推移



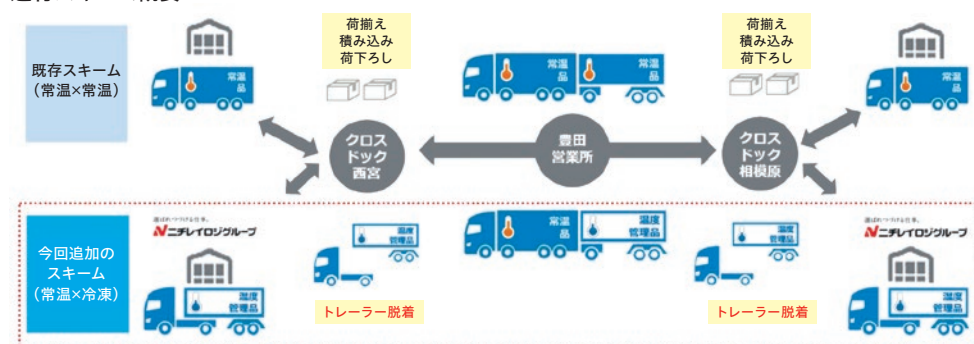
※ 2021年度の計画については、2021年5月11日に公表した数値を反映

TOPIC

冷凍品・常温品の同時大量輸送を実現

ニチレイロジグループは、NEXT Logistics Japan株式会社 (NLJ) とともに、日本初となるダブル連結トラックによる冷凍品・常温品の同時大量輸送を2021年3月より開始しました。これは、関東と関西のクロスドックと呼ばれる中継拠点間を、常温トラクターと冷凍トレーラーを組み合わせた全長25mダブル連結トラックで運行するものです。

運行スキーム概要



ダブル連結トラック



ロジネットコンテナ

従来のトラック2台分の輸送を1回で可能に

ダブル連結トラック運行は、輸配送効率向上によって、これまで深刻だったドライバー不足の課題にも対応できます。冷凍品と常温品を連結させ、ダブル連結トラックで輸送することで、従来トラック2台で運んでいた荷量を1人のドライバーで運ぶことが可能になりました。また、トラクターとトレーラーの脱着作業のみで同時輸送が可能となるため、各クロスドックでの荷役作業や待機時間の削減によるドライバー負荷の大幅な低減も期待できます。

今後は、本運行を通じて、省人化や環境負荷低減などの効果を確認していきます。また、東へ運ぶ荷種を拡充させ、NLJが構築を進める高効率な幹線輸送スキームをより幅広い荷主や運送事業者も活用できる仕組みへと進化させていく計画です。